◎平岡公園ツリーウオッチング　5月～10月の第3水曜日　10時・第1駐車場集合

毎月1回、平岡公園を歩く定例観察会。四季の変化を楽しみながら、樹木を中心に自然についての知識を深めます。春の芽吹きと若葉、樹木の花、秋の紅葉と果実、落葉から冬芽の形成と、季節ごとに変化する森の表情を追います。いつでも、どなたでも参加できますので、お気軽にどうぞ。

5月16日（水）芽吹きの色々・樹木の花を見る

梅の花見シーズンが終わって静かな園内では、*ハウチワカエデ*や*エゾイタヤ*、*ヤマグワ*、*コナラ*、*ミズナラ*など、樹木の芽吹きと開花が一斉に始まりました。今年は*オオカメノキ*の白い花が目立ちます。林床には*オオバナノエンレイソウ*、*タチツボスミレ*、*チゴユリ*や*フデリンドウ*も顔を出しました。湿地では花盛りの*ミツガシワ*に歓声が上がりました。

6月20日（水）さわやかな新緑の森を歩く

先月咲いていた樹木の花は、そろそろ実になろうとしています。*アオダモ*の濃いピンクの実が目を引きました。*ホオノキ*は蕾から咲き終わりまで各段階の花を見せています。*ミズナラ*のどんぐりや*ミヤマザクラ*のさくらんぼは、まだ赤ちゃんです。*オオバボダイジュ*のプロペラのタネ、*サワシバ*の房のタネも成長してきました。

オオカメノキ

コナラ

アオダモ

サワシバ

ホオノキ

◎小学校の総合学習―身近な自然に学ぶ

平岡公園と清田緑地で、地域の小学校の総合学習のお手伝いをしています。3年生の元気な子ども達と、緑濃い７月の森を歩きました。

7月6日『平岡公園たんけん』　平岡南小

湿地では*オニヤンマ*の羽化が始まっていました。まだ羽が伸び切らずに、抜けがらにしがみついている*オニヤンマ*を発見。飛べるようになるまで時間がかかりそうです。崖の下の湧水で足を止めました。この水はどこから来て、どこまで流れて行くのかな？日本海に注ぐまで、いくつの川を通って行くか皆で数えました。*サギスゲ*が揺れる人工湿地では、水を覗き込んで小さな魚（*トミヨ*）を探しました。

7月17日『清田緑地たんけん』　清田小

にぎやかなセミの合唱に迎えられた清田緑地です。*ツタウルシ*に用心しながら山道を上がって、*コエゾゼミ*や小枝そっくりの*シャクトリムシ*を発見して歓声が上がりました。毎年見に来る*アサダ*は可愛い実と、ビロードのような手触りの葉を確かめます。湿地では*オオウバユリ*が花盛りでした。

◎モニタリングサイト1000　里地調査

『モニタリングサイト 1000 里地調査』は、5 年を 1 単位とする定点での調査を継続して、自然環境の変化を記録する環境省のプロジェクトです。平岡どんぐりの森はこのプロジェクトの一環として、カエル類（平岡公園）と鳥類（東部緑地）の調査に参加しています。*エゾアカガエル*は年 1 回の産卵期に卵塊を数えることで生息数を把握します。2018 年度は 3 月中旬に産卵開始を確認、4 月下旬まで2回の調査で産卵数や産卵場所の変化を記録しました。

鳥類の調査は、繁殖期の 6～7 月と越冬期の 1～2 月に各々3 日、東部緑地の決まったコースを歩いて、姿を見たり声を聞いた鳥の種類や行動を記録しています。

繰り返される悲劇　　アオサギ　2018～2019 年

文と写真　　北海道アオサギ研究会代表　松長克利

2018 年は江別のアオサギにとって大変な年でした。4 月、100 つがいほどで抱卵開始、5 月、ヒナ誕生…、とここまではほぼ例年どおり。それが、6 月以降、誰もいない空っぽの巣が突然目立ちはじめたのです。しかも、前回はあの一角、今回はこの一角と、近隣の巣がいくつもまとまって空になるという奇妙さで。それはまるで何か見えない力によってコロニーが少しずつざっくりざっくり削られていくかのようでした。いま思い返すと他にもおかしなことがありました。コロニーが妙にざわついているなと思ったら、親鳥たちが首を曲げ、巣の下を覗き込んでいるということが何度かあったのです。

結局、この年、無事巣立つことができたのはたった 14 羽。例年、数百羽のヒナたちでごった返すあの賑やかな光景はついぞ見ることなく、6 月下旬というあまりにも早い時期に江別の子育てシーズンは慌ただしく幕を閉じたのでした。

そして先日、アオサギ飛来前のコロニーで、この悲劇をもたらした犯人の決定的な証拠が見つかりました。営巣木のケヤマハンノキに残された多数の爪痕、これはもう疑いようがありません。間違いなくアライグマです。

4 月になった今、江別コロニーではかろうじて 40 羽ほどが営巣を続けています。おそらく、このサギたちは去年無事にヒナを巣立たせることのできた親鳥たちでしょう。一方、去年大変な目に遭った親鳥は、この先もう戻ってくることはない気がします。悲惨な記憶をもつ彼らにまた戻っておいでというのはあまりにも酷。どこかアライグマのいない新天地で安全に子育てできることを願うばかりです。

江別コロニーは、22 年前、野幌のコロニーがアライグマに襲われたとき、そこから逃げてきたサギたちによってつくられたと考えられています。平岡や篠路、岩見沢のコロニーも皆この時期に出来ました。興味深いのは、これらのコロニーがいずれも孤立林にあること。つまりここならアライグマは来ないだろうという場所につくられているのです。とはいえ、地続きである限り完璧に安全な場所などそうはありません。7 年前の 5 月、その恐れは現実になり、まず岩見沢のコロニーがアライグマに見つかってしまいました。そして今度は江別です。篠路にアライグマが現れるのもたぶん時間の問題でしょう。その点、平岡の森はフェンスで囲まれている分、まだ安心ではあります。けれども本当に、本当に安全でしょうか？ 平岡が札幌圏のアオサギにとって最後の砦になりつつある今、この問いを改めて問うてみる必要があるのかもしれません。

発行　**平岡どんぐりの森**

〒004－0033　札幌市厚別区上野幌 3 条 5 丁目12－8
代表　荒井美和子
TEL・Fax　011-896-0058

ホームページ　http://dongurinomori.web.fc2.com/